

厚生労働省科学研究費補助金（地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業）
分担研究報告書

Working Group 2: ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに関する国際政策レビュー

研究分担者 野田信一郎 国立健康危機管理研究機構国際医療協力局研修課・課長

研究要旨 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の進捗が停滞する中、新たな保健課題も登場してきている。本研究では、グローバルヘルスの主要な組織が、それぞれの組織内での合意として、どのような UHC の新しい要素を認識しているのか、公式文書をデータとしてテーマ分析と傾向分析を行う。1 年目は、2016 年から 2023 年までの 8 年間に WHO の世界保健総会で出された決議・決定文のテーマ分析を行い、91 の UHC 関連テーマを同定した。今年度は、残りの 11 組織のテーマ分析を行い、UHC 関連テーマ（保健課題 76 テーマ、保健システム課題 105 テーマ）を抽出し、それらの経年変化と組織の傾向分析を行った。

A. 研究目的

国際社会における UHC の概念の変遷と新しい要素を同定し、我が国が行うべき施策をまとめる。

B. 研究方法

国際機関、開発銀行、地域機構、主要国首脳会議において、各組織の意思決定メカニズムの中で合意形成されたものとして発表された公式文書のうち、“Universal Health Coverage” という文言が含まれるものを収集し、テーマ分析により UHC と関連付けられたテーマを同定する。その後、文書の発表年と発表組織毎に傾向分析を行う。なお、人を対象とした研究ではないので、特記すべき倫理面への配慮はない。

対象組織は、地域的な偏りが生じないよう配慮し、下記とした（カッコ内は対象とした意思決定メカニズム）。

国際機関：国際連合（国連総会）、WHO（世界保健総会）

開発銀行：世界銀行（WB-IMF 年次会議）、アジア開発銀行（年次総会、財務・保健大臣会合）、米州開発銀行（理事会年次総会）

地域機構：ASEAN（首脳会議、保健大臣会議）、アフリカ連合（首脳会議、保健大臣会議、アフリカ CDC 会議）、欧州連合、カリビアンコミュニティ

主要国首脳会議：G7（首脳会議、保健大臣会議）、G20（首脳会議、保健大臣会合、財務・保健大臣会合）

その他：東京アフリカ開発会議

文書は、2016 年から 2023 年までに発表された宣言文、議長要約、決議・決定など会議体として合意されたものを対象とし、報告書は除外した。

収集した文書は MAXQDA24 に保存し、検索機能を使い “universal health

coverage” をハイライトし、それを含むタイトルおよびパラグラフを同定した上で、UHC と関連付けられた保健課題または保健システム課題をコーディングした。一つの文書に対して 2 名が独立して同ソフトウェアを使ってコーディングを行い、意見が異なる場合は他のメンバーも交えてコンセンサスを形成し、最終コードとした。メンバー間の一貫性を確保するため、コーディング・フレームワークを作成し、随時コンセンサスに基づいた更新を行った。

傾向分析は、MAXQDA24 のコードマトリックスブラウザを用いて、各コード（テーマ）の経年別および組織別出現頻度を集計した。経年推移の評価は、ノンパラメトリックなスピアマン順位相関係数により判定した。

C. 研究結果

《テーマ分析の結果》

12 組織、84 文書が収集され、UHC と関連付けられて論じられたテーマが 181 抽出された。非感染性疾患や抗菌薬耐性などの保健課題が 76 テーマ、持続的な保健財政や公平で統合的な保健医療サービス提供体制などの保健システム課題が 105 テーマ抽出された。

それぞれのテーマのサブテーマとして保健課題で 211 テーマ、保健システム課題で

	Health issues	Health system issues
Core theme	18	24
Stable core theme	4	3
Emerging theme	37	44
Declining theme	3	10
Unclassified	14	24

178 テーマが抽出された。

《傾向分析の結果》

抽出されたテーマを、5つの分析軸¹⁾に基づきクライテリアを設け、主要テーマ、安定したテーマ、新興テーマ、衰退テーマ、未分類テーマの5つに分類した。(表参照)

主要テーマ(対象8年間で5年以上にわたり、4組織以上の10以上の文書で言及されているもの)としては、保健課題では Prevention and Preparedness for and response to health emergencies(PPR)、非感染性疾患、必須公衆衛生機能、高齢化、貧困層および社会的弱者の健康、感染症、マラリア制圧、栄養、妊産婦、新生児および小児の保健、予防接種、抗菌薬耐性、水と衛生、健康の環境的、社会的、経済的決定要因、気候変動と自然災害、肝炎、性と生殖に関する健康、ジェンダー平等、難民および移民の健康が同定された。

保健システム課題としては、持続可能な保健財政、保健システム強化、保健システムのレジリエンス、国際協力、公平で統合された、人を中心とした保健サービス提供システム、公的財政管理(PFM)、プライマリ・ヘルス・ケア、医療従事者への投資、保健分野を超えた政治的リーダーシップ、非政府組織(民間企業、慈善財団、学術機関)の貢献、コミュニティと地方行政および組織、デジタルヘルス/支援技術、医薬品およびワクチンの不足、患者安全とサービスの質、パフォーマンス向上のための定期的なモニタリングと評価、多部門間の連携などが主要テーマとして分類された。

新興テーマ(増加傾向=Spearman's $P > 0.3$ かつコロナ後優先度が高いまたは5文書以上で言及されているもの²⁾)としては、保健課題では、不平等と不公正、結核、顧みられない熱帯病、COVID-19、ワン・ヘルス・アプローチ、化学物質・廃棄物・汚染、アルコール、青少年の健康、栄養に配慮した食料システム、薬物使用、てんかんおよびその他の神経疾患、公衆衛生上の危険因子と脆弱性、対人暴力、健康増進のための行動科学、インフォデミック、自傷行為、社会・経済的不公正、タバコ、障害、メンタルヘルス、複雑な保健上の緊急事態、外傷、感染予防と管理、眼科診療、口腔保健、ウェルビーイングと健康増

進、がん、統合的救急・集中治療・手術医療などが抽出された。

保健システム課題としては、医療製品の入手可能性、価格、効率性の向上、法的枠組みに基づく関係ステークホルダーとの連携、医療研究開発のための革新的なインセンティブと資金調達、紹介制度、市民社会組織の役割、GovTec、臨床試験、医療従事者の移住、医療用酸素、医療制度への信頼、社会保護制度、消費および関連する医療費を削減するための価格・税制措置、労働衛生サービス、医療従事者の世界的な不足、医療製品の規制、保健当局と財務当局の連携、UHCに向けた独自の道筋の決定、一貫性があり包摂的なアプローチ、保健ガバナンスへの参加型かつ包摂的なアプローチなどが新興テーマとして分類された。

衰退テーマとして分類されたものは、ポリオ、認知症、難聴、戸籍・人口動態統計、倫理的枠組み、ガバナンスおよび監督責任の不備などであった。

D. 考察

UHCがSDGsの目標の一つに掲げられて以降、12の主要な組織においてUHC関連付けられたテーマが181同定された。このうち76は、UHCの対象として取り込まれるべき保健課題として、105は達成が危ぶまれるUHCのために強化すべきまたは取り組むべきとされた保健システム課題であった。これらは、特定の組織が一度だけ取り上げたテーマから複数の組織が毎年のように取り上げられているテーマまでさまざまであった。

新興テーマに関しては、対象期間中の2020年にCOVID-19のパンデミックが起こり、保健システムの脆弱性が露呈し、多くの課題が認識された。ただし、本研究では2020年が期間の中間年であるため、スピアマン順位相関係数では、2020年以降に取り上げられたテーマは一度だけ取り上げられたものでもP値が0.3を超えるため、現在クライテリアの再検討を行っている。

E. 結論

国際社会におけるUHCの概念の変遷と新しい要素を同定し、我が国が行うべき施策をまとめるために、主要な組織がコンセンサスとして公表した文書からUHC

¹ ①言及のあった文書の数、②言及のあった年数、③言及した組織の数、④時事性(2022年以降のまたはコロナ禍後に

言及が開始されたか)、⑤経年的変化傾向

² 現在、クライテリアを再検討中。

に関連付け論じているテーマを抽出し、その傾向を分析した。今後は、グループ 1 が行なっているプロスペクティブな政策レビューによる最近の動向と合わせて、我が国が提唱すべき UHC 関連施策を検討する。

F. 研究発表

今年度のグローバルヘルス合同大会のワークショップにて参加者に結果を共有し、我が国が提唱すべきテーマについて意見を収集する予定である。

G. 知的財産権の出願・登録状況：特になし。